半島青年の決意（詩）[[1]](#footnote-1)

文人香山光郎氏は処遇感謝全鮮大會にその感激を左の詩に託し大會場で披瀝し烈々たる半島青年の決意を吐露した。

　　皇恩極まりなし

　　血をもて御國を守れと宣らせ給ひて間もなく

　　今また政治力もて皇運を扶翼しまつれと宣ひたまふ

　　朝鮮の子ら今銃もちて前線に闘へる如し

　　忠誠の競輪を抱きて議政壇上にたゝむ

　　兵役がいと嚴しき義務にして尊き皇民の特権なりし如く

　　國政參與は皇民の特権以して同時にいと嚴しき義務たるべし

　　皇国は今また三千万の良弼の臣を□へたり[[2]](#footnote-2)

　　一億一体皇国を守らむ

　　一億一体皇謨を翼賛せむ

　　今や彼と此となし

　　たゞ一なり　゛あゝ゛たゞ一なり

　　いざ朝鮮の同胞よ

　　われらあるによりてこの大アジア軍勝たしめむ

　　われらあるによりて大アジア建設完からしめむ

　　かくてこそ大御惠にはそひまつるなれ

　　あゝ朝鮮の同胞よ

　　わが物を捧げまつらむ

　　わが汗を捧げまつらむ

　　わが血を捧げまつらむ

　　わが忠誠燃ゆる脳味噌を心臓を捧げまつらむ

　　同胞よわれらなにか惜まむ

　　わが生命より生まれたるものとないひそ

　　わが生命そのものを捧げまつらむ

　　わが大君に

　　゛やよ゛わが大君に

1. 1945年1月18日付『朝日新聞中鮮版』の記事のなかに掲載された詩で、題目はない。同日の『毎日申報』に掲載された詩「모든 것을 바치리」の日本語版である。 [↑](#footnote-ref-1)
2. 判読不可の部分は「迎へたり」ではないかと思われる。 [↑](#footnote-ref-2)